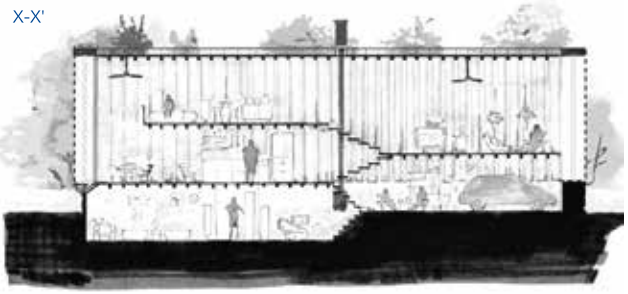
学生部門

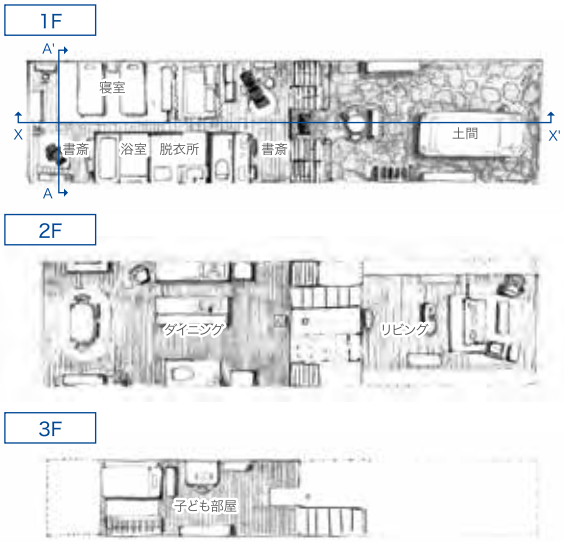
佳作

岡山県立大学
高田 ひみ子

【作品名】
雪下ろしの家
「抜け」から生まれる空間



平面図



立面図

イメージ図

断面図

1.立地場所

富山県富山市立山町。南東には立山連峰、北西には富山湾が臨める自然豊かな場所。同時に豪雪地帯でもある。町域の過半は川を挟んで富山市と向かい合っており、富山市へ出勤する者も多い。喧噪から離れて伸び伸びと生活することができる地域である。

2.設計コンセプト

雪下ろし・雪かきをしなくていい家

住宅間が狭く、屋根から落ちてきた雪が積もって高い雪壁ができる。

➡日光が入らない

➡雪が溶けにくい

敷地に対し細長くすることで住宅間の幅を広くする。

➡日光が入る

➡雪が溶けやすい

➡周辺の見通しが良くなる

3.空間構成

① 採光
天井の先端部分をガラスにすることで部屋全体に均等な光を入れる。

②熱環境
中央とダイニングに吹き抜け空間を配置し、薪ストーブの暖気が部屋全体に行き届く。寝室は安定した半地下空間に設けた。開口部に通風窓を設け、夏は風が家全体に行き届く。

③ステップ空間
部屋と部屋との仕切りに壁ではなく空間のズレを利用。家族同士がつながり、外の景色においても前後がつながる開放的な空間となっている。

設計コンセプト

この家は普段は「雪かきをしなくていい家」であり、緊急時には「突然の大雪に強い家」でもある。近年日本列島では台風、洪水など異常気象が多発している。私の地元である富山でも今年大寒波による大雪の被害に見舞われた。近年の積雪量が減少傾向であった為に突然の大雪に交通渋滞・物流が途切れるなど生活の面において被害が甚大であった。
そこで今回のテーマを今後起こり得る異常気象に対し適応できる家と捉え、経験した大雪の被害を踏まえて「雪は積もるが豪雪地帯ほど雪に対する設備が整ってはいない」そんな地域に適応した家を提案する。
雪問題で目を引いたのは除雪された雪である。屋根から落ちた雪や道路から除雪された雪が住宅間や道路に積もるため日差しが入らず溶けきるまでに時間がかかる。そこで敷地面積に対して細長く建てることで屋根雪が落ちる面積を広くし日光に当たりやすくした。間取りは部屋と部屋を仕切る壁を無くし、ステップフロアにすることで個別でありながらもつながった空間になることで空気の温度が一定となり夏は風通りがよく、冬は薪ストーブの暖気が回るものになっている。玄関と土間が一体となっており、広い土間を開放して地域の人との交流スペースになることを想定している。集合住宅として扱えば隣接する住宅間が広くなり、空や立山連峰の景観と調和が映えるものとなっている。

審査委員講評

豪雪地帯を敷地に設定した計画です。半地下を含むスキップフロアの3層空間は平面的に広がるのではなく縦方向へと伸びていきます。光の取り入れ方や熱環境に対しての仕掛けも巧みで、雪を含めた自然環境に対峙するのではなく共存していく事を想像させる建築です。この建築が連なっていくことで新たな景観が生まれる事を予感させてくれます。